

神戸経済大学校歌 商 神

しゅうしん あやなす つばさをあげて
 れいじょうはるかにひがしをさせば
 くしきこのみはくもまをもちて
 あきつ—しまねにおつとぞみえしと
 こ—ろはここぞきくすいかおるみ
 なとがわらのちかきほとりに
 かくつたわりしあめのさとしも
 ひとはさとらでいくとせかへぬ

神戸経済大学校歌 商 神

1. 商神彩なす翅をあげて
靈杖遙に東を指せば
靈しき果実は雲間を漏りて
秋津島根に落つとぞ見えし
所はここぞ菊水かおる
淡河原の近きほとりに
かく伝わりし天のさとしも
人はさとらで幾年か経ぬ
2. 神の息吹のこもりて成りし
露果いかで地に朽つべき
豊栄のぼる朝日のかげに
八州の外の湖風吹きて
いつしか催す気運に乗じ
わが学校ぞ世に生まれたる
眠る商界夢さますべき
使命は天の授けし所
3. 此処摩耶の山六甲の峰
連り亘る山ぶところに
叢の若鷹はぐくまれ居て
静かにうかぶ雲の行きかい
朝妙なる琴のひびきは
敏馬の浜に松を吹く風
夕やさしき舞の姿は
茅渚の浦曲に白帆行く影
4. 希望に満てる春の潮の
寄せてはかえず清き渚や
熱誠もゆる夏の盛りを
いたわる風の葺合の里
須磨や明石をかけて照るらん
月には物のあわれをぞ知る
冬は凍たる後に嵐
奔馬空行く勢示す
5. 天れ山水の秀麗の気は
偉人傑士を起たしむとかや
天の使命を胸に収めて
清き自然に抱かれながら
筋骨鍛え智徳を研く
切磋琢磨の三年の春秋
養い得たるうつ物の意気
抱負を語れや千余のおのこ
6. 金匱無欠の三千余年
かがやく光は剣の誉
心はおなじ大和男子の
我等は牙を執つて起ちなん
日出ずる旗を高くかざして
日入らめ國と手を携えて
目ざす平和の戦の場に
匂う御国の花ぞ咲かせむ
7. 雄飛の時ぞとねぐら離れて
野に立出ずる蒼涼幾羽
爪も研ぎぬ力も足りぬ
尋にも余るつばさを張れば
枝の百鳥皆おそれ伏す
扶揺万里の風を起して
おのが向々東に西に
雲に突き入る勢見るや

故村上氏・中島氏を偲ぶ

村上さんと私

学11 前 田 寿

五月二十三日の日曜日に家内ともども村上家に参上し、御仏前に御線香をあげ、奥様ともひととき昔話を申し上げた。この春、村上さんの急逝のあと石井幹事長より、故人について凌泳誌上で語るよう依頼を受けた。村上さんを語るには他にもっと適した方が居られるのであるが、私にとっても村上さんは凌泳諸先輩のうち最も身近な方であつただけに、思いつくまま独言してみたい。村上さんが私の最も身近な凌泳先輩であつた第一の理由は、私の現役時代にある。私は昭和十四年に入学し昭和十六年十二月に卒業した。この三年間は学9の中村氏、学10の山口氏のクラスが上に、学12の岡本氏、学13の古川氏が下のクラスと云う期間であり、また、われわれ11回生は云うところの最後の戦前学生であつたり、戦前の凌泳会を知る最後のクラスであつたと云へるのである。この三年間の私や水泳部と凌泳会との接触は即村上さんとの接触であつた。合宿補助金を貰いに行くのも村上さんのところであり、凌泳行事はもとより対抗試合の段取りに至るまで全て村上

さんの指示で動いたものである。村上さんは学7回昭和十三年の卒業であるから、私の入学一年前に先輩と云う形になり面倒を見て貰つたのであるが、私と村上さんとの交りは更に遡及するのである。

私は県立神戸高商から商大へ進んだが、高商三年間も泳いでいた。この県立高商は現在の神戸商大の前身であり、旧高商が現在の神戸大学の前身である国立神戸商大へ昇格して消滅した為、其の後釜的性質を持つものとして設立された由来がある。このことから両校には兄弟校とか実質は予科と云つた空気があり、例えば商大の若手先生は殆んど高商の先生を兼ねられ、私も加藤先生から六年間ドイツ語を教えて貰つたのである。もつとも数年前にドイツへ立ち寄つた事があつたが、グーテンモルゲン位しか聞き取れなかつたのには、我ながら赤面の至りであつた。

ともあれ両校水泳部にもこのような関係があつて、時には対抗試合をするに云つた以上の親しい交りがあつた。特に、関西水連、学連の仕事では常に村上さんの指導下にあつたので、私にとって現役水泳部員の生活六年間を一貫して御世話になつたのは村上さんだつたと云へるのである。しかし、この高商時代の村上さんの印象は、世にも珍らしい世話好きな方だなあと云う位の事で、むしろ学8の大内さんの方が同じ背泳で順位争いをしていただけにより強い印象があつた。

この村上さんの世話好きと云う印象は、其後大学に進み、更に

同じ会社で働くことになってから変化してゆき、村上さんは決して世に云う世話好きでないことが解つて来た。村上さんの本質は余計なことはしたくないけれど、立場上自分がしなければならぬこと、一端引受けたことは好き嫌いを抜きにして誠心誠意を尽し、ことの大小にかゝらず一〇〇%の努力を傾注し、中途半端なことが出来ないと云うことにあると思う。然もこの様な人においてがちな変屈性がなく、むしろ内面の気の優しさが外見的には世話好きと見えたのであろう。一言で云えば「信頼出来る人」と云うに尽きよう。

この信頼出来る人と云うことからまた、一つの思い出がある。

私の在学時代には二年生部員の一名が三年主将の指名で、当時の興一高女の水泳部コーチに派遣される慣習があった。当時の興一高女——今の神戸高校——は関西きつての名門校で、男女共学の今日では想像も出来まいが、学校に出入する商店の従業員も個別身元調査があったと云う伝説があったが、どの様な事情からコーチ派遣が行われる様になったのであろう。実際の事実関係は承知していないので、私の想像に過ぎないが、多分、当時水泳界の大御所である藤井先生に興一より人選依頼があり、藤井先生が大鼓判で村上さんを推され、その村上さんの個人実績の結果が、個人ではなく商大水泳部のと云う形に転換して来たのではないかと思われる。もしそうであれば、歴代のコーチ派遣者は若き日のほんわかとした思い出を村上さんに感謝しなければなるまい。

さて村上さんが私にとって、凌泳諸先輩のうち最も身近であった第二の理由は、卒業後川崎重工に入社し共に同社員として指導を得た事にある。こゝでも川重と商大水泳部との関係にふれておく必要がある。戦前の川重は日鉄と双壁の全国実業団スポーツの雄であった。事実、オリンピック選手がゴロゴロしていたものである。もとより商大水泳部員が川重水泳部員としての活躍期待は彼我ともに無かつたと思われるが、事実として、川重又は川重水泳部と商大水泳部には或る繋がりがあった。年譜的にみると、昭和九年卒の学3回の宮本先輩から始つたようである。次いで昭和十三年に村上さんが、その後十六年十二月の私が続き、戦後は二十二年九月の三宅氏、二十三年の竹内氏へと二十五年の旧川重の新編成時迄つゞいたのである。宮本先輩は川鉄の要職役員をひかれた後、伊丹の川鉄コンテナ社を引受けられているが、社長としてと云うよりも業界団体の会長として活躍されており、この程藍綬褒章を受けられたことは御承知のことと思う。この宮本先輩の川重入社の際には知らないが、村上さんの川重入社は宮本先輩の引き入れであったことは確かである。

私の場合、十六年の夏のブルサイドで村上さんと次の会話が あつた。「就職先は決つたか」：「いや別に、どこに入ろうとも直ぐ兵隊ですから」「兵隊は別として、どんな仕事をしたいのか」——「内部監査論に興味があるので、出来ればこの種の仕事を」——「それなら川重には日本一の内部監査部があるよ」——「入れます

やろか」「大丈夫だ。うちにこい。しかしそうと決まれば北村先生、古林先生には其の旨挨拶をしておけよ」と云うことで、あとから考えると幾ら学生の世間知らずとは云へ冷汗もので、村上さんの大丈夫だに安心して、もう入社した様な感じであった。当時の村上さんは私にとって神様であつても実際は入社三年位であり、大丈夫だ、うちに来いと断定的に云い得る程の実力は失礼乍らあつたとは思われない。つまり当時の川重首脳部と北村、古林両先生とは然るべき道がついており、このルートに乗れば入社できる仕組みになつていたように思われるのである。この裏ルートの工作が本人の知らぬまゝ、また知らせぬように行なわれた。村上さんとはこう云う人であつた。

このような経過で川重に入社したものの、戦前の会社勤めは僅かに二週間に過ぎず、十七年の二月には兵隊となり、北支その他を廻つて終戦の二十年十一月に会社に戻り、その後二十五年八月の川鉄分離で別会社員となる迄はもとより、それ以降も変わらず御世話になり思い出も多いが割愛させて頂き、次のことだけを凌泳会員の方々には知って頂きたいと思う。

即ち、戦争中の前半である昭和十七年・十八年位はとも角、戦況不利となつた十九年・二十年の大空襲で日本国の壊滅があつたと同様に凌泳会も亦壊滅していたのである。戦争の惨禍は経験のない若い凌泳会員には、とても想像も出来まいが、須磨から脇の浜まで完全焼失し、市民は防空壕にトタン屋根を付けて雨露を凌

ぐと云う有様で、今なら鳥の餌の粟や稗の粥をすゝつて生命の維持をはかると云う原始時代に戻つており、昭和二十五年の朝鮮特需の影響が出て来る迄は我が身、我が家族を守るのが精一杯で他人ごとに構うような余裕は気持の上でも、物質的にも無かつた時代であつた。この時に凌泳の火が燃え尽きていたとすれば、もう一度改めて火を燃すことは至難のことであつたと思われる。勿論、大学の復活があれば水泳部も復活し、これに伴い自然にOB会も出来てくる事にはなつたかと思われるが、果して、今の凌泳会のように戦前から継続してと云う形でゆけたかどうか、或いは全く形の変つたものになつていたかも知れない様に思われる。その当時、もう現役とのつながりを持った凌泳会は解散し、戦前OBだけの親睦団体にしようとするやうな意見のあつた事実もある。この時期に凌泳の火種に小枝を加えて守りつゞけて来られたのは村上さんであり、火種をどうやら炎にして戦前の凌泳会を再建されたのも村上さんであつた。

多分二十一年の始めであつたと思う。無事に復員出来た祝いをしようと村上家に招かれた。当時の事情は前述のとおりで固辞したが聴き入れられず、一夕のおもてなしに甘えたのであるが、其の席で小さな書類箱を示され、「自分も一時は軍隊に入り、留守宅も疎開で転々とし乍ら、これだけを凌泳会のものとして守つて来た。他にも惜しい資料が多くあつたが焼けてしまった」と話された。そして、暫くの間をおいて「凌泳会をどうするかなあ」とつ

ぶやかれたあと「手を貸してくれるか」と、こゝれまた私への問いかけと云うよりは自問自答の様な小声で話しかけられた。この時の村上さんの沈痛な表情は今でも忘れられない。手を貸してくれるかと云うことは勿論、凌泳会の再建の為にと云うことで書類箱をお預りして帰る破目となった。

さて何をすることも凌泳会員の消息把握が先決だ、と書類箱から古い戦前名簿を引き出していちいち照合することから始めた。第一回の私宅宛照会は殆ど行方不明で返送され、会社気付の照会も大半は同じ運命となった。一番効果のあったのは勤務先本社人事への照会であった。しかし、これも簡単ではなかった。例えば、川崎重工本社にしても当時は今の三宮、大丸デパート南の別館であり、川鉄関係の事務所は同じく焼ビル十合デパートにあった様に、どの会社も登記上の住所にそのまま所在するのは珍しい位であったからである。然し当時の郵便局の仕事は今と違って責任をもってやっていたし、会社の方でも新住所は届出していることもあり、会社の人事課宛で照会すれば時間はかゝるが大半なんとか返事が戻って来た。

この様にあれこれやっているうちに、曲りなりにも名簿が固まってくる様になり他方、現役水泳部も戦争中断の復学組の連中が水を求めて集る様になって、こちらの様子も解って来た。もっとも、プールサイドで各自が故郷の産物をリュックに入れ替えて散ってゆくと云った開屋と運び屋の集団の様でもあった。それでも

彼等の水に対する情熱は立派なものであった。一番始めに現れたのが学15の井川氏、学16の三宅氏で、次いで学17の竹内氏や岡氏等の顔が続くのであるが、現役の連中が出て来た以上、なにはともあれ金集めと、改めて凌泳OBに現役及び凌泳会の復活を伝える会費送金を願うことになった。

これ等の実務はすべて三宅氏に御願ひしたが、手紙を書くにも用紙・封筒はなく、たゞ切手代は公定なのでこれには聞かないから、これ位しか凌泳手持ち金では賄えなかった。

しかし幸いに、当時の私の職場はG.H.Q命令に依る川重の解体再建整理の仕事をしていたので、毎日々々ガリ版を切って手動の謄写印刷を繰返していたので汚損紙の裏面利用可能紙にはことかゝらず、家で仕事をすると呼んで鉄筆・ヤスリ・ガリ用紙を持ち帰り、三宅氏がこれでガリ版を切って会社で人目を盗んで印刷すると云う段取りであった。こんな状態乍ら私としては三宅氏の御蔭で今迄の兵隊の位から下士官に上り、凌泳会事務局は村上さんを大將にして下士官、兵隊の三人編成となることが出来、以後わたしは仲継ぎ役として楽をすることになった。然し其の代わりに三宅氏には大変な御苦労を其の後もおかけすることになってしまったのである。

金集めと云えば、こゝでまた特に古い先輩には改めて御了承を願ひ度いことがある。凌泳会費は今でも凌泳会として集金されてはおるものゝ、実際は水泳部宛送金と相違なく、又時には水泳部員が直接に参上して頂いている。しかし戦前は水泳部は凌泳会に

は金を買いに行くだけで、凌泳会費は凌泳会事務局に別に集っていたようだ。これは凌泳会員も少く凌泳会事務局も固まっていたと云うことの外に、会費と云うよりむしろ大口寄付が凌泳会運営資金の基礎にあつたように思われる。例えば大阪で三商大戦があれば其のあと南の富田屋できれいどころを並べての宴が商20の故大谷先輩によって設営される例は別格として、戦前の課長さんともなればサラリーマンと云つても懐工合は今の社長さん以上の豊さであつたからだろう。

ところで戦前は前述の様有様で、会費送金を御願ひしても得たりや応と送金を得たのは寧ろ例外であつた。食うや食わずで泳いでいる部員。一円でも欲しいし、出してもやりたいの気持ちから現役部員の集金参上の形式に切り替えを図つたのであつた。これはうまくいった。部員も単に集金屋ではなく、部と凌泳会の近況報告の使者の役目を充分心得ていたからである。このシステムも数年間は至極順調に進んでいたが所謂戦後派学生だけの現役となるにつれ多少の違和感が出て来た。即ち或る先輩から「昨日部員が会費集めに来たが、会費をお願いしますと云うだけで近況報告もなければ挨拶もない。金を貰うのが当然だと云う顔をしている。いったいどうなっているんだ」とか「凌泳会名簿が届いたが半年前に会費集めに来た時住所不明となつている友人の名簿を修正してやったのに、相変らず空白となつてはいないか」等々であつた。其の他あれこれあつたが、村上さん曰く「世の中が變つたの

に古い戦前派心情を戦後派に要求すること自体に無理がある。

老兵は消えるべきであろう。凌泳会事務局も先ず戦中派でリレーしながら戦後派に委ねよう」と云うことになり、村上さんと共に私も凌泳会事務局を離れ、あと一切を三宅氏に引継いだのである。

それ以来私と凌泳会、特に現役とは会費を払う以上の繋がりは無くなつたのであるが、或る機縁で石井幹事長と知り合うことゝなつた。石井氏と私は冬のスキー行のグループとして長年の知己であつたのに御互に凌泳会員とは知らないまゝ交際していたのである。それが、あゝそうであつたのかと云うことになり、それから又改めて現役情報が入る様になり、又若い幹事諸氏とも知り合ひになり「村上さん、昔一時心配していた様な事は全くありませんよ。非常にうまく行っています。又、面倒を見てやって下さい」と御電話したのは昨年二月の凌泳会の水泳行ならぬスキー行のあの事であつた。

凌泳会を消滅させなかつた村上さん、これほど凌泳を愛し尽くし心配された村上さんに、生涯の最後の一年を凌泳会監事として、今日のこの盛大な凌泳会を見て頂けたことに、不思議な仏縁を感じるのである。

合 掌

中島功君を悼む

新1 関山道雄

中島功が死にました。

仲間と離れた 仙台で、桜の花の咲くのも待たず死にました。

女房と息子一人を残して死にました。

誰がろても、とても死にそうに思えなかった

中島功が死にました。

四年前だったか、朝日火災海上の支店長として、仙台へ行くとき、帰ったら又、思い切り飲もうと言って、北へ旅立った

中島功が、帰ってこずに死んでしまったのです。

思えば、若葉のまぶしい六甲台の芝生の上で、

水泳をやらないかと

私をプールに誘った中島功は

赤銅色に輝く肌と締まった体をしており、

水泳部のエース浜川さんより強そうでした。

名門次木中学出身と聞いて、さこそその思い、

それに惚れて、私は水泳をはじめたのです。

松蔭高校のプールで、六甲台のプールで、宝塚のプールで、

そして阿波池田の合宿のプールで、のったり のったり、ゆっくりしたピッチで泳ぐ

中島功の黒光りの体を

私は、いつも、うらやましく思っていました。

予科から大学へ、試験の時、中島功は

いつでも一番先に答案を出して

胸を張って出て行きました。

思い切りのいい男でした。

でも、人生には、もう少し執念が欲しかったと。

四十代も、まだ半ばというのに

あわてて死んだ 中島功に

私は、文句を言いたい気がしています。

私には、今でも、あの黒い顔の中島功が、

「ヨオッ」と言っていて出てくるように思えてなりません。

どこかで、盃を合わせて飲めるような

気がしてなりません。

でも、本当に 中島功は死んだのです。

ただ 謹んで ご冥福を祈るのみです。

わたしの鑑定評価

— 中洲と祇園 —

水泳部学生後援会々々長

新22 家 本 博 一

中洲と祇園——西日本を代表する「色街」である。不動産鑑定評価等で全国各地を調査のため旅をすることが多く、ためにネオンの街もいろいろな都市で「実査」させていただいている。東は札幌のすすきのから、西は長崎の丸山まで、ここ二年間で約二十カ所ほど訪れたが、日本人の好む情緒のある街は案外少ないように思えた。最近、座敷でゆっくり飲むよりもスナック風の「洋式」がお好みの方が多いようで、日本男性として、毛トウのマネをしてまでも酒が飲みたい男性諸氏には重々反省を求めたい。

月はおぼろに東山

かすむ夜ごとのかがり灯に

夢もいざよう 紅ざくら

しのお思いを ふりそでに

祇園恋しや だらりの帯よ。

祇園ではほとんどないが、中洲では頼むと「球磨焼酎」や「薩摩焼酎」をもってきてくれるが、灘の生一本ではぐくまれし我輩にとつては、いささか「シラケ虫」のお時間。お湯で割ってレモ

ンを入れて飲むと、なるほどウマイが、たかだか焼酎。しかも、あれを飲むと足にくる。足や腰が自分の命令を無視して、まるで自民党のアホな派閥のごとく、どこへいくやら、何をやるやら。あげくの果てには溝に落ちて、スネすりむいて。

中洲と祇園——なにか共通したものはないかと考えるに、情緒の面はさておき、両者とも川に沿っている。祇園は鴨川、中洲は？川——いくら聞いてもすぐ忘れるのだ。川の流れる音に囲まれて、そこに織りなす色模様、やはり川とは切りはなすことができないのかも知れない。川で思い出したが、筑後柳河の町は、北原白秋の生地で有名だが、あの町全体のかもしだすアトモスフィアは実に「人の心にやわらかい」。川下りの船にゆられて一時間半、そんなに変わった町でもないのに、なにか「旅人」の心をなごませる。同じ川下りと言っても、球磨川の川下りは、情緒を楽しませる類いのものではない。いくらレインコートを借してくれようと、アッシは少々でかいたために人一倍水しぶきをかぶり、頭からビシャビシャ。川下りの終点で二時間も日ざらし。同じ川でも長良川の鵜飼いは、夜の灯のもとで行われるだけに、なにか楽しむものがある。しかし、出演して下さる「鵜」のみなさんは、今どき珍しい重労働を課せられるそうだ。鵜の顔を拝していると、「鵜」らしめしそうにみえるのはそのためかもしれない。まるで、友人の結婚式に出席したときの「チョンガー男」の顔を見ているようだった。

凌泳会のみなさん、それではまた来年。

それまで　ご健勝に夕

凌雪クラブ報告文

新10　米　田　啓　祐

今年もまた、二月二十一日（土）より、神鍋の名色、糸乗氏方に集合しました。姫路の山口さん（新5）、神戸の石井さん（学22）らを中心に、もうここ数年続いている凌雪クラブの年中行事の一つです。一年に一度だけ神鍋に集まるのですが、その一年間の月日は、いつのまにか過ぎて、こうして集まるのは、昨日の続きでもやるような気分になってしまうのです。

二月二十一日（土）は、但馬の冬にはめずらしい快晴の日でした。名色ゲレンゲに、午後には姫路から萩原君（新10）、平岡君（新11）、そして小生と集まっていました。快晴のためか、雪質はそう上等ではなかったけれど、青空と、冬の太陽と、雪とがあるかむこうに神鍋のスキー場や民宿が小さく見えていました。気がつくとき青空の中にくっきりと、ジェット機が白い飛行機雲を残しながら飛んでいます。夕方までたっぷり滑って宿に帰る。

五時ごろ宿に帰ると、もうにぎやかになっていました。石井さん・

山口さん・高岡君（新10）らもすでに到着。少し遅れて丸山君（新13）もスキーをしこむべく愛息をつれて到着。

いよいよ夕食となる。宿の主人のはからいで、いつでも一室を我々のために確保していただき、にぎやかに、そして楽しく食べて飲んで、語ってのひとときとなる。今年のカニスキ料理であった。しかし、その味つけにつかう垂れ（タレ）は山口さんがわざわざ姫路から大きなビンに入れて持参されたものである。聞けば、その道のプロより秘伝されたものとのこと。これは山口さんしか作ることができず、どこにでもあるようなものではない。山陰の海でとれたカニも、このタレの中では、また格別の味となり、つきつきとカニのおかわりが要求された。

カニスキの中でアルコールも進み、話はずんだ。まだ、小生の酔わぬうちで、記憶に残っているいくつかのことを、記しておきます。

かつての姫路のプールで泳いだものが多く、遠く過ぎた青春をそのプールと共に思い出し、話に一花さきました。あの姫路分校校舎は、今は女子短大になっているとか。プールも運動場のはしに盛り土をしてそこにあっただままとのこと。幸い高岡君がその学の青春時代をなつかしんで一度泳がせてもらおうということになった。その計画が具体化したときには、どうぞ姫路プールに思い出のある方々は、ご参集いただきたいと思えます。

この凌雪クラブでは石井さんの考案でバッジとワッペンが作られています。いずれも雪の結晶の中に神大水泳部のカップが図案化されて、なかなかしゃれたものです。この夜も、ワッペンなどの即売があった。赤地に白の文字・絵で、それぞれ家族のひとりひとりにふだんつけさせていてもすばらしいということであった。スキー場だけでなく、どこでつけても、結構見ばえがするものです。ご希望の方は石井さんまでご連絡あればいいかと思えます。

明けて二十二日(日)、天気はまったく一転して雨となる。しかし、せっかくここまでできたのだからひと滑りすることになる。朝食までに滑ってきても、食後は姫路の広畑の新日鉄プールにかけける計画となる。

七時前、雨が休むことなく降っている中を簡単な雨具を身につけてでかける。

「雪を見るとゾクゾクして飛び出すほど若くもなくなつたし。」とヴェテランの方は宿のこたつに残られることになる。

朝早いのと、雨とでゲレンデはすいており、リフトで登っては、滑りが、何回かできる。しかし、からだの中にまでしみこんでくる雨水にはかなわず早々に引き上げる。

宿に帰ってふる、そして朝食。そして姫路の広畑の新日鉄プールにむかう。姫路方面に向かう車は国道に渋滞はじめていました。しかし、その車の間をぬい、人の知らない裏道を通りぬける道案内のくわしい人がおられて、姫路のめざすプールには二時ご

ろには着きました。北のスキー場から、南のプールへ。その行動力、機動力には、小生など驚いてしまう。それから、摂氏九十度の室温などと言われても信じ難いようなサウナぶるにもいれてもらい、それから昨夜の続きのごとく姫路のごちそうを食べるところとなる。昨夜の山口さん持参のタレの秘伝にあずかったところとか。我々のために、他の客はシャットアウトのよう。そこでも、食べて飲んだ。寿しのそばなるものも食べた。

田舎の、山や川や大地の上でくらししている小生にとっては初めてのことが多く、珍しかった。ふだん生活しているところを忘れ、のびのびと楽しく過ごさせてもらいました。この二日間は、まったくいろんなことのある長い二日間でした。

例年このように開かれています。昭和五十二年の例会に、また多くの参加者があってにぎやかになりますように、どうぞおいでください。

凌雪クラブージュニア編

新26 後 藤 信 人

初めに、山口仁郎先輩をはじめとして、凌雪クラブ会員の皆様方の御許のないうまま「凌雪クラブジュニア」などという不屈千萬にも借名称致しましたこと、御免なさい、とすなおな態度は、ジュニアらしくかわいらしい。

現役部員の間、スキーがはやり出した発端は、たぶん今年卒業なさった山口嬢、川本嬢、山田（麻）嬢の三悪女（失礼）が無類のスキー氣狂いであつたことであろう。特に体育会の常任幹事をしていた山口さんは、体育会主催のオープンスキーなどでは、最上級者の集まる一班のコーチとして活躍していた程、スキーの腕前というか足前……いや、やはり腕前というべきか、その技術は小生のバチンコの指前と似たところがありました。

さて、昭和は昨年の五十年。後期試験が終りました三月四日の晩、小生及び同輩の酒井君・平石君の三名はオープンスキーに参加すべく大阪駅に集合致しました。（エピソードその1）この時、金を忘れた平石君が一番近い葺合区の親戚から急現金を届けてもらい辛くも難を避けた。物語りのすべてはここから始まるのですが、世はスピード時代、話しの回転も早くせねば読者諸君もあくびの一つや二つした後、ろくに読みもせず頁をめくってしまうのではないかという恐れがある為、オープンスキー解散後にとびます。忘れていましたが、スキー場は信州の戸狩であります。

解散は九日の朝でありましたが、その直後、川本・山田両先輩と合流し、我ら一回生は三人のお姉様から水泳よりも厳しい特訓を受けるはめとなつたのであります。いくら三日間の講習を受けたからといっても、全く初めての我々が彼女らについていけないはずがないのです。昼過ぎ、一足先に帰神してしまつた酒井君をう

らめしく思いながら、平石君と小生は、鬼の特訓からなんとか逃れ、好き勝手に滑っていたのであります。その時です、悲劇が起つたのは。小生の大転倒、しばらくは足が折れたような錯覚に陥つたほどの激痛が身体中を支配し動けなかつたのであります。不幸中の幸い、目の前のロッジで休んでいた山口さんらに目敏く発見され、急救本部にかつき込まれた次第であります。重症のねんざという診断でホツとしましたが、小生のこの年のスキーは、この転倒が最後となつたのは口惜しい限りでありました。

その晩、我々の泊まっていた民宿「美やもと荘」に水泳部の女雀士こと、フミ（高木）・アワ（栗野）が現われ出でたのであります。類は類を以て集まるとはよく言つたものです。さつそく、好き者の二人を我々の部屋にひっぱり込んだのであります。小生がリュックの中にしのばせてきた雀牌をひっぱり出し、夜を徹して卓を囲むことになつたのは、一斉がっさい、彼女らの責任でありましょう。もちろん、この晩は麻雀以外の何事もなかつたことをつけ加えておきます。（エピソードその2）翌日、小生は一人でバスに揺られ野沢温泉に遊びに行き、指の体操をしたのですが、三十分で三千円の負け。]

ところで、凌霄クラブのおじさま方と違つて、我々は何といつても青春のロマンをも求めて参加した訳でありました。運よく大阪から神戸の某短大に通う四人の女の子と知り合うことができ、五月の連休には連れ立って京都に遊びに行くなんてシャレたこと

までしたのです。が、その後の経過を述べることは、いろいろ弊害をもたらず為、伏せておきます。

年はかわって昭和五十一年。一月末に我々現役部員の元にも届いた凌雪クラブ開催の通知。しかし残念なことに、日程が試験期間と重なっていたのです。それならばと、一年前の経験を生かし、自分たちだけでツアーをくんでスキーの旅を楽しむことになったのであります。

参加者は、チエ（27回生）以外全部26回生で、フミ・アワ・井上・平野・酒井・平石・小生の計八名。三月二日の夜行で出発し、着いた場所は樽池（つがいけ）高原。女の子は皆、シーズン中三と四度スキー場を訪れるつわもの揃い。それに比べて男の方は、井上・平野の両君は全く初めて。残る三人も昨年以來と、どうも滑り出す前からコンプレックスに陥っていた様でありました。夜行列車の中ではしゃぎすぎた男共は、昼からダウン。夕方女の子が帰ってくるのを高いびきをかきながら待ちわびたというわけです。

翌日からは、時間の許す限り滑り続けました。若いうことはすばらしい。若いばかりでなく、夏水泳で鍛えた体力がものをいっているのは当然のことです。一番上のリフトまで上って、一日が暮れるまでにロッジに戻れるだろうか、みんなとはぐれてしまった井上君と小生の勇敢なるスキー下山。心細かったが、征服した後は二人ともかなり自信をつけたのであります。（エビ

ソードその3——スキーをはいて歩くのが一番にが手な井上君は、あと一息でリフトに乗れるというとき、バランスを失いツツツと長い列の一番下まで行ってしまった。）

帰るところには、初心者のお二人は、ボーゲンならどこでもスイスイ。又、我ら三人も女の子について、トレインできる程上達し神戸に帰ってきたわけです。（エビソードその4——平野君はスキーで差をつけられている分のお返しという訳で、夜の麻雀では一人勝ち。スキーとは別に旅行を計画しているフミのふところを脅かした。）

ま、こんな具合に現役組も、かなりスキーを楽しんでいるということを知っていたたく為にもこんな報告文を書いたのですが。来年の春は、是非とも凌雪クラブの例会に我らも参加しよう、スキーの話が出る度に、相談している始末です。

OBからの便り

―但し、ここに掲載した近況報告は、本年度凌泳総会を開催するに際し、関西地区在住のOB諸兄にお送り致しました案内状の返信より抜粋させて頂きました。

○桑川 義男 (学4)

元気でおります。戦後最大の不況にもようやく回復の兆しが見えてきたようです。諸兄の御健闘を祈ります。

○池谷 俊一 (学4)

ライオン不動産会社を退職。目下家庭で自適の生活。健康の為、早朝散歩は毎日欠かさず実行している。

○北村 五良 (高13)

水泳は子供時代から大好きですので来会したく存じますが、机上に仕事の書きものが山ほどございまして、来会できません。どうぞ盛会のほどを祈ります。

○尾上 信三 (学12)

低速経済の世で、むづかしくなりましたが、日本人は閉窮に強いから乗り切りましょう。但し、泳ぎの低速は困ります。御健闘祈ります。

○山田 常雄 (学1)

昨年この総会には、村上さんも元気な姿で出席され、帰途古林先生と三人でいろいろ話しをしたものであったが、惜しい人を失った。このごろは、毎日忙しく動き廻っています。裁判官時代よりはずっと忙しく、自分の時間をとるのがなかなか難しいほどです。しかし忙しく働けることを感謝し乍ら、日々を送っています。今夏はソ連旅行に行こうと思っています。

○岡本 忠男 (学12)

五月十四日迄は神戸に居ますが、十五日・十六日はどうしても門司に帰らねばなりません。残念です。皆様によろしく。

○荻野 茂希 (学13)

水泳部並びに凌泳会の方々には、長らくご無沙汰しております。卒業以来、既に三十余年を経た今日、在りし日の水泳部の方々が殊の外懐しく感じる年令になりました。繊維不況の折柄、数年前より会社の方は義弟に譲り、何かよい仕事は

ないかと雄伏中です。学生の数では昔にくらべて圧倒的に多くなっているのに、年々水泳部が弱くなってゆくのを不思議に思う者の一人です。部員の方々の御活躍を切望してやみません。

○山越 重義 (学17)

学窓を出て早くも二十八年。帝人と云う繊維メーカーに就職してがむしゃらに仕事一途に励んできた。気がついてみると五十才の坂を越え、先が見えてきた感じがする。人間一生仕事一途にと云う生き方もあるが、何が余裕を持った人生を送りたい気もする。少し老人くさくなったかなあ、と思うけれども水泳部で鍛えたファイトはやはりあるらしく、まだまだ頑張りたいのが本音。

○小川 直 (学17)

今春、広島へ転勤になりましたので、御来広の節は御立寄り下さい。皆々様によろしく。

○石井 義章 (学22)

今年は村上先輩、中島君と悲しい知らせが相次ぎ淋しい限りです。景気悪く商売の方もサッパリですが、元気でやっています。

○松田 司朗 (新5)

脱サラ十年。飯のみは人並みに喰わせて頂いております。正月前後の休日は、近くの温水プールへ出掛けて千米位泳いでいます。一度プールサイドへ上ったなら「枯れた泳ぎをさめますなあ」と云われてガックリきました。皆様によろしく。

○柴川 泰介 (新7)

今年には内地の仕事に落ちつけそうです。諸先輩方に御無沙汰していますが、秋頃から会合に出席させて貰えそうです。

○平岡 昭朗 (新11)

昨年十月、待望の二世が久しくして誕生しました。仲人の山口仁郎先輩にあやかり女兒です。急に家の中が忙しくなりました。小生がよく風呂へ入れるのですが、手元が狂いよく落とします。「これで泳ぎを早く覚えるで。」とは、二月の凌雪会での石井義章先輩の言葉でした。

○藤岡 治男 (新11)

四月一日付をもって同一市内、新喜多(シギタ)中学校へ転任いたしました。今年には是非一度は大学へ顔を出させていただきます。

。堤 莊祐 (新12)

まいにちまいにち相変わらず同じ仕事が続いています。卒業以来、十二年。多少変化が欲しいこの頃です。五月中旬、下旬にかけて転居のため、多忙につき欠席させていただきました。御出席の皆様方よろしくお伝え下さい。

。藤井 元洋 (新21)

三月に長男が誕生し、もっかお風呂の中で泳ぎの手ほどきをやっています。小学校勤務も今年で四年目になり、今年は四年生を担当しています。

。佐敷 定雄 (新22)

週に二回大阪ロイヤルホテルのプールで泳いでおります。週に一回バレーボールの練習でしごかれています。週に二回(少なくとも)飲みに行っております。ゆえにまだ独身です。五月十六日は長谷川君の結婚式にゆきます。初泳ぎの連絡なく寂しい限りです。連絡は早いめに練習はきついに頑張れ!

。上田 敏彦 (新24)

不動産部に配属となり、一線で活躍しております。(自分ではその気持ちになっております)。一人前になるにはまだ

まだ。現役諸君 ガンバッテ下さい。

。松山 玄彦 (新24)

毎日楽しく銀行へ通っております。月に一度はCLUBに顔を出すつもりですのでよろしく。

。細谷 明夫 (新24)

入社後は、自分の時間をあまりもてませんので、大学在学中の方々は、有意義に日々を送って下さい。

今、私が思うこと

神大水泳部の雀鬼

私は、水泳をやり始めて今年（一九七六年）で七年目になりました。思えば高校へ入学したとき、それまではほとんどスポーツをやったことがなかったので、体を鍛えようと水泳部へ入ってしまったのでした。高校時代といえば、コーチにくるOBが恐ろしくて、ただがむしゃらに泳いでいたように思います。高2の時に、幸運にも神戸市内高校選権で、四〇〇m、八〇〇m自由形に優勝してしまつて、それからは水泳に対する色気も出てハッスルしたように思います。高3の時には、神戸市内高校選手権で念願の総合初優勝し、その時の感激は今でもはっきりと覚えています。そんなわけで、高校時代の私の水泳生活は、幸運にも成績もよく、いい友達もできて、非常に有意義なものであったように思います。

では、大学へ入ってからはどうかというと、それは散々なものでした。一年・二年のときなどは、主将のSさん、Uさんに怒られたばなしで、記録も高校時代よりもだいぶ悪いものでした。今その原因を考えてみると、やはり自分に甘えていたということが一番だと思います。高校の時に比べてそれほどやかましくないか

らだということは少しはあるかもしれないが、やはり自分自身を気をぬいていたからだと思う。私は、クラブのあり方としてよく思うのですが、コーチとかOBが鬼のようにしごきまくるよりは、もっと自主的に泳ぐほうがいいと。少なくとも神大水泳部にはその方がよいと思います。確かに人間は弱いものだから、自分で自分をいじめにくいということもわかるし、ポロをやっているときなどには、特にコーチの必要性というものを感ずるが、それもやろうと思えば自分たちでカバーできないものではないと思う。

三年のシーズンが終った月見の宴の時に、主将を押しつけられて以来、さぼるわけにもいかず練習して来て、今春五月にして、高2以来ごぶさただったベスト記録も更新できて、今シーズンはどういふわけか非常に調子がよく、久しぶりに意欲が出てきている。特に今シーズンには、部員も増え、部全体の雰囲気も盛り上がり、目標も高く掲げている。最後の水泳シーズンを、一部員として主将として、悔の残らないようにしたいと思っている現在の私です。

青春の日に

迷い人

昭和五十年十一月十五日（土）

毎日毎日、講義・バイト・レポートと自分の時間が余り多く

はもてない。かなり疲れているような気がする。体も心も。

昭和五十一年 一月十三日 (火)

何かを書きたいのだが、何も書けないのはつらい。

昭和五十一年 一月十八日 (日)

男は

心が通い合えれば

それだけで

何もいらぬのです

昭和五十一年 一月二十六日 (月)

怠惰な生活が続いている。甘えの生活だ。けだるさが続くのも、心の糧がないからだろう。

あどけない幼な子の 黒い瞳に見つめられると

もうそれだけで 動けない

心の底を見透(す)かされ

時は止まる

澄んだ瞳に 汚れが映る

ふと気づいた時

とまった時間が 動き出す

そしてまた 汚なさを忘れはて

いつもの自分に戻る

きょう電車の中で幼稚園に行ってるか、そうでないかぐらい

の年令の男の子が母親とすわっていた。子供は黒目じゅう瞳にして、空中の一点を見つめている。焦点も決まっていないうように。いったい何を考えているのだろうか。頭の中には何があるのだろうか。おかしなことだろうか、おもちゃのことだろうか。虚飾など全くない うらやましさを思う

昭和五十一年 四月二十四日 (土)

地下街を歩いていると、立っている人、友だちと、人と話している人、化粧をした女、アベック。みんな偽りの服を着、本心を見せずに心の中であざわらっている。汚ない。

「まわりは すべて 汚なく見えて

ふと 少女にあこがれては

汚れきった心の中の 泥沼に気づく」

昭和五十一年 四月二十五日 (日)

純粹であれば あるほど

人はキズついてゆく

何故なのだろうか？

昭和五十一年 五月 三日 (日)

迷路の中を あっちへぶつかり

こっちへぶつかり

青春とは そういうものだ

☆ みんな 日曜日 P.M八時から

「俺たちの旅」を見ませう

大林君に関する所見

(PART II)

平 石 康

まったく惜しい人をなくしてしまつた。というのは、彼が、なんと、とりこぼし、もせずに守備よく、たった二年間で、教養を卒業してしまつたからなのです。これは、医学部の学生にとつては当り前の事であるのですが、彼にとつては、奇跡的とでもいふべきできごとなのです。これは、水泳部にとつては、大きな誤算であり、彼がもう一年いてくれたら、神大水泳部の黄金時代が築けたのに……。今さらながら、丸末氏とともに、もつと麻雀に誘つておくべきだつたと、悔やんでゐる次第なのです。

目下、大倉山の医学部で、ブラックジャックも顔負けの、人体解剖に精を出しているそうですが、またセッシヤも、お世話になる時があると思うので、その時は、「大林先生」よろしくお願い致します。

大林先生殿、昨年は試合にあまり参加できず、貴殿をはじめ水泳部の皆様に、ご迷惑をかけたことをおわび申し上げます。小生も、悪気があつてやつたことでなく、迷いに迷つたあげく仕方なく、不本意なことになつてしまつたのでして悪しからず。今年こそは貴殿のように締める時はキッチリ締めて、期待に背かず、ガンバ

りたいと思ひますので、貴殿も、愛用のセドリックに乗つていつでも、六甲台に顔を出してください。そしてまた、手を振りながら泳ぐユニークなクロールや、新しいギャグを聞かせていただきたいものです。小生が「おうやるやんけ」だつた頃、貴殿は「オウナンテコッタイ」だつた。小生が「ばてとるなあ」だつた頃は貴殿は「ドラマテックやなあ」だつた。小生が「五杯が限度だなあ」だつた頃、貴殿は「今日は六杯飲んだかなあ」だつた。小生が「ツモのみ」だつた時、貴殿は「リーソクツモ三発」だつた。ワツカルカナ〜、ワカンネエタロウナア〜。はやてのように現われて、はやてのように去つていつた大林殿、カブト虫の大林産業、共々、これらのご健闘を、お祈りしております。

フィクション

「プールの星」

T O T

和夫は二時限目の授業が終ると退屈な様子で教室からでてきた。三時限目も授業はあるが何だか気がすまないもので部室にいることにした。六月の日ざしは真夏ほどではないが坂を登つていく和夫にとっては暑かつた。腹もすいたので六甲台の食堂でパンを買つていくことにした。部室にはだれもいない。静かだった。ただ時おりカラスがカーカーと和夫をあざけ笑うように鳴いているだけだ。和夫はしばらく机の上にあるマージャンパイをジャラジャ

ラとさわっていたが、やがてあきて外へ出た。

プールは底が見えるほどきれいだった。今年は浄化装置も調子がよいのでシーズン中ずっときれいな水で泳げると思うと和夫はうれしかった。

彼は早々とユニホームに着替え、プールサイドに仰向けになって寝そべった。空は目に痛いほど晴れていた。彼は目を閉じて大きく空気を吸った。時折太陽が雲に隠れるのが目を閉じていてもわかった。そのたびにまぶたの模様は消え、太陽が顔を出すとまたきれいな模様があらわれた。気持がよかった。さわやかな風が和夫のほほをやさしくなでた。「ああ、なんて平和なんだ」和夫はそう思いながらほかに何も考えず眠いままにうとうとした。一時間ほどたつただろうか、和夫は首すじにアリがはうのに目をさました。そしてゆっくりと起き上がって部屋をのぞいたがまだだれもいなかった。

和夫は机の上の記録帳をとり出し目を通した。六月に入ったばかりだというのに記録帳にはやけに旗が立っていた。部員も一年生が多く入り三十余名になっている。今年是一部昇格というクラブ目標もあるので、キャプテンをはじめみんながんばっているのだ。

和夫の心も同じだった。とにかく俺も三年だしがんばらなければと思うのであった。和夫にとって今クラブは大きな存在だった。本当に自分が楽しいと思うのはクラブしかなかった。

楽漢とした大学で暗中模索の内に毎日はずぎていく。そうした中で和夫はあせるのであった。このままだと大学の四年間はむだになってしまう。この自由な四年間に何か自分に貴重なものを残したい。

そう思う和夫の心がクラブの存在意義を大きくしたのだった。和夫は記録帳のタイムを一心に見ていた。その時だけが歩いてくる足音が聞えた。「ガチャ」ドアを開けて入って来たのは一年の女子部員のけい子であった。

「先輩、こんにちは」

まだどこことなく少女の面影をもつ彼女は子ねこのように可愛いらしかった。

「今日は、もう授業はないんですか」

「うん、まあ」

無造作に答える和夫の心はおちつかなかった。

机の上にかばんを置いてせつせと室をかたづけられている彼女に和夫は見とれていた。

「けい子は？」

「何がですか」

「授業だよ」

「はい、ないですよ」

和夫はけい子と同じ室に二人でいるというだけで満足だった。ただうれい気持で一ぱいだった。和夫は時計を見た。練習時間

までまだ一時間ほどある。

練習時間まで二人つきりだったらなあ……と思う和夫であったが、その心は無惨にも崩された。

「オス」

同学年の安岡だった。

「あついなあ、たまらねえ」

額の汗をぬぐいながら彼はカッターのボタンをはずした。

水パン一枚になった彼は泳ぐつもりかもう準備運動をしている。プールでイルカのように泳ぐ安岡を見て、和夫は一種の劣等感を覚えた。和夫はまだまだ遅く、メドレーのメンバーには入っていない。なかつた。

一度でいいからメドレーにでてみたいと思うのであった。

「安岡さん、早いですねえ。かっこいいなあ」

そばで見たい子と言った。

和夫はおもしろくなかつた。だが、しかし、同時に彼の心には炎がついていた。負けるものか、俺は俺なりにがんばってやる。自分に勝ってやる。試合にもきつと入賞してやる。その時の自分を考えると和夫はいてもたってもいられなかつた。ユニホームを脱ぐと和夫はすぐにプールに飛び込んだ。

俺はやってやる。いや、やらねば。安岡に負けてたまるか、和夫の心にはけい子が微笑んでいた。和夫はますます水泳にとけていった。その上けい子の存在がクラブをより楽しいものにした。

ひょっとすると留年するかも知れないという和夫の焦燥は、いつのまにか消えうせ、今は留年してもいいと思う和夫であった。

帝国主義的の高校で育った俺

ご　っ　と　ん

俺の出た高校は、静岡県の沼津東。県下では静岡・浜北高と共に御三家と呼ばれ進学校として有名であるが、この沼津東には、沼中以来の古めかしさ、しかし角度を変えて見れば新鮮な体制が残っている。

中学三年間を吹奏楽と共に歩んできた俺は、やはりここでもトランペットを吹いて始まりそして終わるつもりで入学した。しかしながら人間とはいつても環境に支配されているのであろうか。徐々に徐々に俺の思想なり信念なり、果ては顔つきまでも変えていったのである。

その体制を象徴していたものは二つ。一つは、全校生徒に対しては学校長より強い発言力・強制力をもつ応援団長率いる「応援団」。そしてもう一つは、学区内を八つに区分し、近在住者同志の親睦を深めるとかいった名目の「地区会」。この二つの姿なき怪物がどんなものであったかを紹介しよう。

入学して数日経った或る日の始業前、教室のスピーカーから、いつもの優しい放送部員の声とは全く違ったぶっきら棒な声が発

せられた。「本日、応援練習を行なう。昼休み十五分以内に、一年生は体育館に集合すること。くり返す……」。尚、三年有志を募る。以上。「一年七クラスの教室は騒然となるのを通り越して、沈うつなムードが支配する。午前中の授業は全く身に入らず。三限目が終わると、申し合わせた様に全員弁当を開く。俗に言う早弁であるが、応援練習のある間は、この時間が昼食時となる。しかし、緊張感により、せつかくおふくろが心をこめてつくってくれた弁当を胃袋が拒否し、一口二口食べるだけ。うらめしい気分です。再びかばんにつつまむことになる。四限目が終了すると、即座に体育館に向かう。今考えてみると、まるでアウシュビッツ収容所に送られるユダヤ人の気持ちとさして変わりなかったのでは？

体育館いっぱいになる程、間隔を置いて整列させられる。壇上に三年生の団員の一人が上り、「おう／＼おまえらのけさのバサ持つてるときの並び方はなんだありや。なつちやいねえじゃやーか。おまえらそれでも東高の生徒か／＼反省しろ。」すると、一年の隊列をぐるりと取り巻いている有志の中から「おみもらはよー、まだ一人みもーの東高生じゃねやーだよー。」すると、一斉に「ソーダッ／＼」

一言一言に俺たち一年生は力いっぱい「ハイッ／＼」と答えていた。次いで発声練習。有志が待ってましたとばかり、列の中に入り込んでくる。団員が腕を振り上げると同時に、「ソォー」

と腹の底から大声を上げる。声の小さい者（たとえそれが先天的であろうとも）息の続かない者は、容赦なく最前列に正座させられる。足の開き方が小さい、と足をかけられ転倒する女の子も出てくる始末。そうしたことに對して反感や同情心が瞬間的には起こるのだが、そんな偽善めいたものは、その場の雰囲気もみ消してしまふ。利己主義者、卑怯者呼ばわりされることから逃れる為の云々。……違ふんだ。

最後に校歌斉唱を団員及び有志が行ない、いきなり翌日までに覚えてこいと命令された。この日から応援歌七曲全部覚えるまでの一週間は、もう勉強どころではなかった。校歌にしろ応援歌にしろ、歌詩が旧文体で意味がわからないから、尚更苦勞する。歩きながらも食事中も、授業中でさえ生徒手帳を開き放し。なるほど、上級生の手帳を見せてもらったら、だれもその頁だけ茶色に変色しており、真中にははっきりとした親指の跡まで残っていた。教えられた曲は、翌日すぐに歌わされ、例の有志たちが、口もただけをにらみながら廻ってくる。ちよつとでもひっかかると、前へ出され、正座。正座を強いられた者たちのたどる運命は、放課後屋上での特訓である。ちなみに俺は三日間特訓を受けた。完全に一人で歌えるまで冷たくザラザラしたコンクリートに正座し、必死に口の中で暗唱を続ける。自分の番がきて、立とうと思っても麻痺した足が身体を簡単には支えてくれないこともある。ようやくその場から解放されると、屋場に散らばっている二・三年の

団員一人一人にお礼を述べ悲憤な気持ちで帰路に着いた。

俺は一心に考えた。「あの三年生全体の団結力、そして応援団の非情なまでの統率力は一体何が可能にしているのだろうか。」

応援練習を通じて、そろそろ新入生の顔を三年生が覚えてきたころ、地区会の対面式が区別に開かれる。これがまた、あまりにも人権無視、三年生のうっ憤晴らしといった観なのである。自己紹介の為、教壇に立つ時以外背筋を伸ばし、身動き一つせず腰かけているのだが、これがおよそ三時間。少しでも背を曲げたり、表情をくずしようものなら、竹刀で小突かれる。

自己紹介するのも必死。終わりまでつかえることなく、大声をはりあげねばならない。根も葉もない三年生集団の野次との戦いである。負けたら、声が小さいという理由で、窓際に連れて行かれ発声練習。ふてくさったら、チョークの粉の積もった教壇に正座。

しかし、地区会は一年生よりも、二年生に対してのやきのいれ方が厳しかった。特に一年間を通じて、あいさつをしない者、要するに、知ってて知らぬふりをして通り過ぎるという態度をとる者に対しては、執ようなる糾弾が待っている。俺は思ったものだ。来年の春は、この悲憤感漂った二年生らから、俺たち自身がやられるのかと。

こんなふうにして、俺たち一年生は、夏までには一人前の東高生になれた。不思議なのは、大半の一年生が、上級生に対して反

抗心も持たずに、ついていけたことだ。理由は一つ。上級生が言葉だけでなく、行動で東高生とはこんなものだと思わせてくれたからだ。壇上に立つたら、鬼のように見えた応援団長が、混んでいるバスの中で女の子のかばんを持ってやったり、不良かなんかだと思っていた地区会の先輩が一生懸命クラブに打ち込んでいる姿を見ついたり、本当に心打たれる場面がありすぎた。ガリ勉しいい大学に入ってやろうとしか考えていなかった俺（あるいは俺たち）は、ひどく自分が情けなくなつたものだ。

だから、だから俺は、二年のとき、いつもくだらんことで内部分裂を起こしている吹奏楽をやめ、水泳部に入部し、そして三年になったとき、進んで応援団員となつたんだ。

俺の感じたこと、言いたかつたこと、神大水泳部諸君にわかってもらえただろうか。

雑 感

T 28 慈 幸 弘 樹

私は何がおもしろくて六年もの間水泳を続けてきたのだろうか。そしてまた大学でもそれが繰返されようとしているのです。今思えば、中学時代の三年間「練習で泣いて、試合で笑え」をモットーに脇目もふらずによくがんばつたものです。そして高校時代の三年間は「練習で笑い、試合で笑え」をそのまま実行しようとし

ましたが、あえなく挫折。この頃からなんです。中学三年間あんなに愛した？平泳に自ら限界を感じ、自由形、蝶泳、背泳とまるで渡り鳥のように各種目をさまよいはじめたのは。そして知らず知らずの間に私の体型も丸みを帯びてきていたのです。こうなつてはいけません。「水泳ももうダメだ」と悟つたのは高二の秋。この年は校内柔道大会でベスト4に進出しただけに、「柔の道」を進もうかとも考えましたが、やはり水泳にしがみついていた高三時代なのです。

このころから、我が水泳部の目標は高校総体も然る事ながら、校内水泳大会に向けられ、私も例外ではなく五〇〇平泳で素人相手に何メートル差をつけられるか真剣に考えていました。我われ水泳部員が年に一度優勝できるのは、この大会だけです。目が血走するのも当然です。私自身も他をよせつけずまったくの独泳でしたが、それでも乙女の心をものにすることができず、新たな失望を味わつたまま高校での水泳生活を閉じました。

今、このように考えてみても、水泳をやつてよかつたと思われれることは何ひとつありません。でも大学へ入ってプールを見つけると、どうしても泳ぎたくなる。記録が出なくても水に入っているだけでうれいのです。あの水の感触が好きなんです。この病氣、こしばらく直りそうにありません。でも幸いにして神大水泳部にはこの病氣にかかられた人がたくさんおられるようなので、私も少し安心しています。

自 惚

B 28 村 上 正 之

私はつくづく自分を運のいい男だと思っています。中学生のとき絵ばっかり描いていた私は、進学校へ進める成績ではありませんでした。入試の直前友人が、「村上よ、工業（高校）は男ばあぞ」と言ったのであるほどと思い、勉強を始めたなら悪戦苦闘するばかりを見かねた秀才の女の子がいろいろと教えてくれ、笠岡西中からは最低記録で笠岡高校に合格したのです。ところがその女の子は広島大附属福山高校へ行ってしまったので、再びぼくの成績は落ちるところまで落ち、一年生の成績は二〇五人中一九〇番を出ていました。ところがある日、あれは一年生のクリスマスの日だったような気がしますが、クラスで一番できた女の子が「あなたはどうして自分でやってみようとせんの？」とハッパをかけてくれ、勉強を教えてくれるようになったので、再びぼくの成績は上昇し、一年後にはその女の子に勝つようになりました。ところが入試の直前その女の子とケンカして、そっぽを向かれたばかりは入試に失敗しました。しかし一浪したら物理の力が不思議なくらいつき、新しくはじめた地理Aもうまくいき、去年よりいい大学にはいれました。人生なんてほんとうにわからないものだと思います。でも、神戸大を落ちて二期へいって物理でもやっていた

ら、歴史に残る大発見をしたかもしれませんが、もうそこまでは考えません。

ではどうして私のような運動神経の鈍い者が運動部に入ったかと申しますと、ある晩、実業界にいる伯父にこう言われたからなのです。「もう勉強はそれほどせんでええ、数学と語学ができれば十分だ。それよりは運動でもやるか、彼女でもつくって遊んどけ。」と。クラブは頼めば入れてもらえましようが、後の方はちょっとそういうわけにもいきませんので。しかし私も男です。そのうち男の少ない奈良へでもハントに行つて、十分な成果をおさめてまいります。どなたか欲求不満の方はご一緒しませんか？

五十年 岡山県立笠岡高校（元女学校 現家政科併設）卒

注一 自惚とは「うぬぼれ」と読んでください。

注二 三々四行目「ばあ」とは限定の副助詞です。（岡山弁）

親愛なる友へ

P 28 坂 井 久 子

その後、お変わりありませんか？

私の方には大異変がおこりまして、体も妙な具合です。体重がグッと減ったかと思うと又、グリーンと増えたりして……。

大異変というのは他でもありません。水泳部に入ったのです。

つまり私は中学校以来のカナヅチャンピオンの座を今、譲らん

としているのです。

思えばプールの水を見ればゾツとしていた私が、今は星条旗顔負けの水着で、味付け水にむせかえりながら、チャンピオンの座を譲ろうと勝手に決めた隔日練習というハードトレーニングに励んでおるのです。

先輩達はバラエティーに富んでいらつしゃって、必殺仕置人の元締めも負けそいなレイコ先輩をはじめ、魔力を放つだみ声の〇スケ先輩、私とは似ても似つかぬ体型の義兄（？）や、ちょっとタレ目のハンサムボーイや、生活に疲れたような方など、諸々で一人一人紹介していると夜が明けてしまうのではないかしらん。とにかくシゴキとは程遠いファミリームードの中で今だにカナヅチを片足につけてなんとなく頑張っています。

書きたいことはもつとあるけど、今日は疲れたのでこの次又、お手紙します。

そちらの近況もお知らせ下さい。それでは今日はこのへんで。

さようなら

感想

P 28 池 上 英 子

今日でプールへ入った回数は、記念すべき十回になる。その間いろいろな事があった。

ほんとうに死んでしまうんじゃないかと思うようなめにも、たびたびあった。プールの澄んだおいしい水も、十分味わった。でもみんなのおかげで、なんとかプールののはしからはしまでは泳げるようになりました。優しい先輩ばかりで、一生懸命教えてくれるのには感激（人により時として恐怖）です。

これからは、とにかく早くみんなの練習の足でまといにならないで泳げるようになりたい。

そう思っているべくさほらずに、がんばって練習にでようと決心しかけているところです。

故に水泳部のみなさんと、それから虫も殺せないという天使のような優しい丸末さん、今後ともよろしくお願いします。

T 28 油 谷 隆 司

やっこのことで大学に入ることができて、どんなクラブに入ろうかと迷っているところへ、勧誘の電話がかかってきた。文化部には強いて入る気もなく、また大学の体育部はめっちゃくちゃきびしいところと聞いたので、迷った。

結局、高校時代中途半端に終わってしまった水泳部のどろ沼にはまりこんでしまった。

入ってみると、いろいろユニークな人がたくさんいるが、それ

は本誌上においてみんなが書いていると思うのでやめにする。「毒を食わばさらまで」ということわざがあるが、「水を食わばコケまで」という気持ちでがんばりたいと思う。

「新入部員自由ノート」より

今日は凌泳総会があったわけですが、私たち新入部員男子は、みんな水着を忘れてしまったので、総会が始まるまでは暇でたまりませんでした。その上、総会が始まったから始まったで食事は出ないし、「こんなことなら来るんじゃないか。」と思ったのは私一人ではなかったと確信しています。しかし、このような席に出席することによって、「あーオレも神大水泳部の一員だなァ」と身にしみて感じ、がんばらなくっちゃ、という気力がわずかながらもおこったということは、出席した意義があるというものです。

五月十六日 慈 幸 記

今日は、プールの底の線が見えたので、みんな感激の涙にむせんだ。いつになったら底がはっきり見えるのだろう。「東京には空がない」と智恵子は言ったそうだが、「神大のプールには底がない」と私は言いたい。既にプールの壁に顔をぶつけ、ふためと見られぬ顔となり、コースロープで手を切り、そこから破傷風の菌が入り右手を切断しなければならぬかもしれない。もうすぐ自殺者や発狂者が出るだろう。そして夏、泳ぐと底から手が伸び

てきて、底へ引きずり込もうとするに違いない。だから私としては、新しいプールを造り、神主を呼んで除霊をやってもらいたい。木の葉がプールに入るのは、きつと昔木を切ったたりに違いないからだ。

五月十七日 土 井 記

今日は、快晴で絶好の水泳びよりでしたが、あたしはきのう飲んだプールのおいしい水が胃にもたれて休んでしまったのでした。最近クラブを休んでも、恐怖のビート板をもったシマシマパンツのわんぱくフリッパー丸末さんの姿が目の前にちらついて、落着いてトイレにも入れない。いつになったらあの特訓から解放されるのでしょうか。だいたいあのプールは深すぎるのだ。最初の日、おぼれかけた時なんか海の底にいるみたいだった。(コケもはえているし)あの日からあたしには、水たまりさえプールに見えてしまうようになったのです。とにかく、早く人並みに泳げるようになって恐怖の特訓から解放されたいものです。

五月二十日 池 上 記

今日の報告。角刈りのお兄さんことGOTTON先輩が十二時四十分女子の更衣室に乱入したとかノ 原因は何故だか知りませんが、厳正な制裁を受けるべきでは? そういうことが起こるのクセになるので、私達女子はこわくて(本当は…)着替えることができません。この際、入口にカーテンをつけようか、それと

も鉄格子をはめようかなどの意見が乱発していました。

チエ先輩のお誕生日でした。おめでとうございます。遂にハタチ……何をやっても許される年令と思えばいいけれど、私もあと一年ちょっとで二十才なんて。目の前まっ暗というか、あせるというか、とにかく「少女A」のうちにやっつけてしまいたいことがいっぱいあるのです。それにしても服を着たままプールに落とされるなんてまったく酷ですネ。チエさんは、うまく難をのりこえたからいいものの、我身にふりかかってきたら？ せめて水着かジャージぐらいのところであ協してほしいと思います。それでは、私は誕生日（八月二十六日）にはクラブをサボります。ところで、本当に落っこちてしまったら、いかなる姿で帰っていいのでしょうか？

五月三十一日 山本記

（大声で読むべし）我々は……この……神戸大学水泳部における……一年女子部員による……不当な労働拒否による……男子……一年生部員の……差別的な重労働を……改善せしめるために……今……立ちあがって……女子部員に……次のことを……要求するものである……

一、練習後、そそくさと、先輩のように帰らないこと。
二、練習後のカルキまきを毎日すること。

三、男子更衣室及びプールサイドを掃除すること。

以上の……義務を……果たすことを……強く……要求するもの

である……

△神戸大学水泳部新入部員男子労働条件改善要求実施推進委員

会々長V

話しかわるが、最近プールの水が澄んで実に喜ばしい。やっと水たまり、又は沼からプールと呼ぶにふさわしくなった。これですら存分泳げるからガンバローと思うのは氣ばかりで、体がついていけない。あゝあ。

六月二日 木戸記

私はなにかの間違いで、神大に通りましたので、何かやって体を鍛えようと思い、KYCに入部したのですが、やたらと金使いが荒いし、体を鍛えてくれるような雰囲気とも違うので、思いきってやめて水泳部に入った訳です。で、まあ現在は必死でもがいております。頑張ってみなさんのようにがちりした筋肉をつけて、十年か二十年後か……の女性に出会ったときには、シャツをばつとまくって見せてやりたいと思っております。それでまあ最後に、いつか入部したての頃、竹島先輩に向かって恐れ多くも、「あなたは新入生ですか？」と聞いたことと、丸末さんを顧問、村田さんをコーチ、教養部の先生を「先輩は何年生ですか？」と、かなり多くの人の年令・職業を間違えたことをおわびします。

六月三日 村上記

我々下級生は、最上級生の四回生がこのところ、狂い咲きをし

ている。(平石さんの言)のにくらべ、自己最高には全く届かないな、さけない記録しか出せないとは、いやまったくなげかわしい。この中で山本の純ちゃんがベスト記録を出したのは立派である。

だが池上は途中で泳ぐのをやめたりして、これはベスト記録がどうのこうのという問題ではない。あえて私はここで詰問する。ここは水泳教室ではないのである。神戸大学水泳部なのである。このところをはっきりすべきである。さもないと、人間ではない、と誰かが言った丸末氏に食われてしまうよ!

六月十二日 慈幸記

京阪神三大学の試合がありました。結果はともかく、我が校の男子の力泳ぶりには感心させられ、特に中耳炎の村田さんの頑張りに頭が下がる思いであった。今、玲子様のおうちで飲んだビールがきてきてだいぶ頭がくらくらしてきた。酔いにまかせてわたしは一言、言いたい、それは名前のわりには無慈悲な慈幸お兄様に対してです。わたしにとっては七五〇の時点がいつも生きるか死ぬかという感じで、げっぶちゃんをだして呼吸を整えているのです。あれでもわたしなりに一生懸命なのですぞ。だからまずタイムはともかく一度も止まらずに完泳することを目標に、また明日から新たに頑張るつもりです、慈悲深い慈幸お兄様、水泳教室ではないなんて言わないで、時々泳ぎ方を見て注意してやって下さい。スピッツにはなれなくても神大のダックスフンド

くらいにはなりたいたい池上英子様でした。

六月十三日 池上記

初めまして、何か書けということなので書きますが、僕はだいたいからして筆無精なのであまりこういう風なのは書いたことがないので、このノートを最初から読んでみて勇気百倍(?)何か書きます。水泳は小学生のとき経験しただけなので、何とか形になっているのはフリーだけのようです。中学生以後は軟式庭球部に入っていました。だから神大に入った時も軟式か硬式の庭球部に入ろうと思いましたが先輩から、庭球部はどちらも厳しくて授業にも満足に出られないぞと聞いて「大学に入ったら勉強をやろう」と思っていた僕は即座に断念し結局硬式庭球同好会に入りました。しかしここは人数が多いせいか練習に参加するものも自由であり、しかも練習場所は遠く練習時間は一時半から五時というので、何となくやる気がなくなり自然脱退。それで結局何となく水泳部に入ったのです。入部したことの是非はともかく一年生男子は女もないほど貧相な面の持主ばかりなので気が合います。さあ、今日もはりきって練習しよう!

六月十八日 中尾記

現役部員ベスト記録一覧

男子

1976年6月22日現在
(但し大学入学以後のもの)

氏名	学年	種目	100m	200m	400m	800m
丸末一之	4	自由型	1-02-8.	2-21-1.	5-13-0.	11-02-8.
檀上明夫	4	蝶泳	1-38-0	3-41-4		
佐藤弘之	4	個メ		2-46-8.	6-15-4.	
小林正文	4	平泳	1-25-0	3-06-5		
中西康之	4	自由型	1-03-7.	2-25-0.	5-21-5.	11-24-0.
伊藤良一	4	自由型	1-08-7	2-37-6	5-53-7	12-24-7
浦本幸二	4	平泳				
平石康	3	平泳	1-17-6.	2-49-8.		
酒井正人	3	背泳	1-15-1.	2-43-9.		
後藤信人	3	平泳	1-25-5	3-08-2		
塩浜英二	3	蝶泳	1-21-0	3-11-0		
井上央	3	自由型	1-28-6	3-36-4	7-43-0	
阿部誠次	3	自由型	1-33-6	3-46-0	7-49-0	
平野輝雄	3	自由型	1-15-4	2-58-0	6-29-3	14-26-0
木下修一	3	平泳	1-27-0			
村田邦夫	3	自由型	1-03-5.	2-25-8.	5-30-7.	
慈幸弘樹	1	個メ		2-42-0.	6-04-6.	
土井祐二	1	自由型	1-19-0	3-07-4	6-32-8	13-28-0
油谷隆司	1	蝶泳	1-47-2			
木戸功	1	背泳	1-22-6	3-09-9.		
中尾稔	1	自由型	1-13-8	3-27-1	7-37-4	
村上正之	1	平泳	2-15-1			
永田安徳	1	自由型				

※ ・印は10傑に入っている記録を示す。

女 子

氏 名	学年	種 目	100 m	200 m	400 m	800 m
山田 玲子	4	平 泳				
浜西 美智子	4	背 泳	1-29-9			
高木 史子	3	自由型	1-20-3			
栗野 正子	3	自由型	1-30-6	3-34-0		
有本 智恵	2	自由型	1-16-3	2-53-8		
谷村 幸子	2	平 泳		4-55-4		
竹島 信子	2	背 泳	1-27-9			
内田 里佳	2	平 泳				
清水 万里	1	自由型	1-25-9	3-13-0	6-43-4	15-26-4
山本 純子	1	自由型	1-33-4	3-49-3	8-09-0	
池上 英子	1	自由型	3-00-0			
坂井 久子	1	自由型	2-35-4			

「記録というものは、良くも悪くも、スイマーの作り出した一つの芸術なのです。

ベスト記録を出したときの喜びは、スイマーでなければわからないのです。

ここに記載した一つ一つの記録にも、各人いろいろな思い出がしみこんでいるはずで、これからも、ベスト記録を出した仲間には、心から祝福し、拍手を送ってやろう。」

歴代10傑表

昭和51年6月22日現在

一〇〇m自由型

1.	浜川広海	学22	1-02-2	S.26
2.	丸末一之	新25	1-02-8	S.51
3.	佐敷一定雄	新22	1-03-1	S.47
4.	村田邦夫	新26	1-03-5	S.51
5.	中西康之	新25	1-03-7	S.50
6.	中村市治	学9	1-04-6	S.14
6.	木村多加緒	新18	1-04-6	S.43
8.	丸山显也	新13	1-05-4	S.39
8.	天野孝司	新24	1-05-4	S.49
10.	片平		1-05-6	S.29
10.	以西吉一	新18	1-05-6	S.43

二〇〇m自由型

1.	丸末一之	新25	2-21-1	S.51
2.	佐敷一定雄	新22	2-23-0	S.48
3.	木村多加緒	新18	2-24-0	S.43
4.	中西康之	新25	2-25-0	S.49
5.	大林良和	新26	2-25-2	S.49
6.	村田邦夫	新26	2-25-8	S.51
7.	玉置明	新18	2-27-4	S.44
8.	慈幸弘樹	新28	2-28-8	S.51
9.	大橋進之	新19	2-30-8	S.44
10.	佐藤弘之	新25	2-31-4	S.48

四〇〇m自由型

1	大林良和	新26	5-08-9	S.49
2	丸末一之	新25	5-13-0	S.51
3	玉置明	新18	5-19-6	S.43
4	中西康之	新25	5-21-5	S.48
5	浅間啓介	新10	5-22-8	S.36
6	佐敷一定雄	新22	5-24-2	S.48
7	天野孝司	新24	5-25-8	S.48
8	村田邦夫	新26	5-30-7	S.51
9	石原敏三	新13	5-32-5	S.38
10	細田忠雄	新6	5-33-4	S.31

八〇〇m自由型

1.	大丸	林末	良一	和之	新26	10-48-4	S.49
2.	丸末	末村	多加	緒	新25	11-02-8	S.51
3.	木玉	村置	明		新18	11-04-1	S.42
4.	玉置	間啓	介		新18	11-05-2	S.44
5.	浅高	岡敷	保定	宏雄	新10	11-12-2	S.36
6.	佐中	西野	康孝	之司	新10	11-20-1	S.34
7.	天沢	内	孝夫		新22	11-20-4	S.48
8.					新25	11-24-0	S.48
9.					新24	11-27-2	S.47
10.						11-28-7	S.42

一〇〇m平泳

1.	鈴木	木石	俊康	彦	新17	1-14-3	S.42
2.	平菊	田修	三		新26	1-17-6	S.49
3.	菊慈	幸弘	樹		新18	1-19-0	S.44
4.	慈佐	藤弘	之		新28	1-19-1	S.51
5.	栗渡	原稔			新25	1-22-0	S.48
6.	渡松	辺義	治			1-22-8	S.40
6.	松坂	山玄	彦		新23	1-22-8	S.47
8.	坂木	本正	彦		新24	1-23-2	S.50
9.			広			1-23-6	S.41
10.			資		新17	1-23-8	S.43

二〇〇m平泳

1.	鈴木	木石	俊康	彦	新17	2-47-2	S.40
2.	平菊	田修	三		新26	2-49-8	S.50
3.	菊岩	切博			新18	2-55-6	S.44
4.	岩阿	部洋	三		新19	2-59-9	S.45
5.	阿大	崎			新15	3-00-1	S.39
6.	大安	茂弘				3-00-2	S.39
7.	安村	岡英	樹		新11	3-01-9	S.38
8.	村栗	原稔			新8	3-02-1	S.34
9.	栗佐	藤弘	之			3-02-5	S.44
10.					新25	3-03-0	S.48

一〇〇 in 背泳

1.	田 渕 五 郎	新 3	1-13-0	S. 27
1.	木 村 多加緒	新18	1-13-0	S. 43
3.	玉 木 喜代明	新19	1-14-6	S. 44
4.	酒 井 正 人	新26	1-15-1	S. 51
5.	岡 村 司	新 7	1-16-0	S. 33
6.	印 南 修 三	新22	1-16-7	S. 46
7.	部 坂 克 夫		1-17-2	S. 12
8.	瓜 生 誠二郎	新23	1-18-0	S. 47
9.	井 上 隆 史	新10	1-19-0	S. 36
10.	木 下 雅 浩	新14	1-20-0	S. 44

二〇〇 in 背泳

1.	木 村 多加緒	新18	2-37-0	S. 43
2.	酒 井 正 人	新26	2-43-9	S. 51
3.	玉 木 喜代明	新19	2-44-3	S. 44
4.	印 南 修 三	新22	2-47-7	S. 46
5.	瓜 生 誠二郎	新23	2-49-4	S. 47
6.	福 田 大 式		2-53-8	S. 44
7.	木 下 雅 浩	新14	2-56-3	S. 44
8.	佐 藤 弘 之	新25	2-56-8	S. 48
9.	慈 幸 弘 樹	新28	2-57-7	S. 51
10.	木 戸 功	新28	3-09-9	S. 51

一〇〇 in 蝶泳

1.	佐 敷 定 雄	新22	1-06-0	S. 47
2.	大 橋 進	新19	1-09-1	S. 44
3.	佐 藤 弘 之	新25	1-13-7	S. 49
4.	熊 岡 禎 二	新17	1-16-1	S. 44
5.	上 田 敏 彦	新24	1-16-4	S. 50
6.	岩 切 博	新19	1-16-7	S. 44
7.	藤 森 一 男	新23	1-16-8	S. 47
8.	末 光 英 和	新19	1-18-0	S. 43
9.	日 野 康	新14	1-18-4	S. 39
10.	慈 幸 弘 樹	新28	1-19-6	S. 51

二〇〇m蝶泳

1.	佐敷定雄	新22	2-34-5	S.48
2.	木村多加緒	新18	2-40-5	S.42
3.	阿部洋三	新15	2-48-0	S.41
4.	大橋進	新19	2-50-6	S.45
5.	菱田徹	新18	2-51-6	S.44
6.	藤森一男	新23	2-53-1	S.49
7.	安部		2-56-1	S.39
8.	佐藤弘之	新25	2-57-2	S.49
9.	武政英幸	新12	2-59-5	S.38
10.	岩切博	新19	3-02-4	S.45

三〇〇m個混泳

1.	慈幸弘樹	新28	2-42-0	S.51
2.	鈴木俊彦	新17	2-44-1	S.42
3.	佐敷定雄	新22	2-45-6	S.48
4.	佐藤弘之	新25	2-46-8	S.48
5.	丸末一之	新25	2-47-5	S.50
6.	木村多加緒	新18	2-48-6	S.43
7.	藤森一男	新23	2-50-0	S.47
8.	熊岡禎二	新17	2-51-3	S.43
9.	大橋進	新19	2-52-2	S.44
10.	小越信昭	新14	2-53-3	S.38

四〇〇m個混泳

1.	木村多加緒	新18	5-58-2	S.43
2.	慈幸弘樹	新28	6-04-6	S.51
3.	鈴木俊彦	新17	6-11-8	S.41
4.	佐藤弘之	新25	6-15-4	S.48
5.	沢内孝夫		6-15-8	S.42
6.	平石康	新26	6-20-0	S.50
7.	熊岡禎二	新17	6-23-5	S.44
8.	岩切博	新19	6-24-2	S.45
9.	丸末一	新25	6-25-0	S.49
10.	玉置明	新18	6-25-2	S.43

四〇〇m混継泳

1.	木村・鈴木・大橋・以西	4-48-5	S.43
2.	玉木・菊田・大橋・山本	4-52-6	S.44
3.	木村・鈴木・阿部・宮部	4-52-9	S.41
4.	木村・鈴木・熊本・以西	4-53-8	S.43
5.	瓜生・平石・佐藤・中西	4-55-3	S.49

二〇〇m継泳

1.	丸末・佐藤・伊藤・中西	1-57-3	S.50
2.	佐藤・大林・中西・丸末	1-57-4	S.49
3.		1-58-4	S.27
4.		1-59-2	S.6
4.		1-59-2	S.14

四〇〇m継泳

1.	以西・玉置・熊岡・木村	4-32-2	S.43
2.	中西・藤森・佐藤・佐敷	4-33-3	S.48
3.	丸末・長谷川・天野・佐敷	4-35-5	S.48
4.	小林・岩切・大橋・佐敷	4-39-0	S.45
5.	小林・藤井・大橋・佐敷	4-46-8	S.45

八〇〇m継泳

1.	平石・慈幸・村田・丸末	9-53-7	S.51
2.	丸末・中西・大林・天野	9-54-9	S.49
3.	中西・丸末・天野・佐敷	10-05-2	S.48
4.	大林・佐藤・中西・丸末	10-08-6	S.50
5.	大林・伊藤・中西・丸末	10-10-2	S.50

昭和五十一年度 凌泳總會 議事録

昭和五十一年度凌泳會總會は、五月十六日（日曜）神戸製鋼健保プールにて開かれました。出席者は、水泳部員二十名、OBからは、萩原武先輩ただ一人だけで、さびしい会でありました。

- 一、水泳部新入部員紹介
- 二、昭和五十年一般経過報告
- 三、昭和五十年決算報告
- 四、昭和五十一年度予算案審議
- 五、昭和五十一年度行事予定発表
- 六、その他

昭和50年度決算報告

○ 凌泳会

収入

凌泳会々費	282,200円
寄付金	40,000
<hr/>	
	322,200

支出

「凌泳」発行費	72,500円
会合費	25,000
通信費	35,420
交通費	24,570
水泳部援助	144,710
全国凌泳会基金積立	20,000
<hr/>	
	322,200

○ 全国凌泳会基金

収入

昭和49年度積立繰越	60,000円
昭和50年度積立金	20,000
<hr/>	
	80,000

支出

なし	0円
次年度繰越	80,000
<hr/>	
	80,000

○ 水泳部

収入

前年度繰越	6,146円
部員アルバイト	97,500
育友会援助	48,000
凌泳会援助	144,710
部費負担	488,300
合宿費	374,900
会合費	113,400
<hr/>	
	784,606

支出

水連登録費	30,000円
合宿費	458,660
会合費	144,135
試合練習費	5,435
交通・通信費	11,080
設備・燃料費	78,890
衛生費	22,870
雑費	6,166
次年度繰越	22,370
<hr/>	
	784,606

昭和51年度予算

○ 凌泳会

収入

凌泳会々費	320,000円
寄付金	40,000
	360,000

支出

「凌泳」発行費	75,000円
会合費	25,000
通信費	35,000
交通費	25,000
水泳部援助	180,000
全国凌泳会基金積立	20,000
	340,000

○ 全国凌泳会基金

収入

昭和50年度繰越	80,000円
昭和51年度積立金	20,000
	100,000

○ 水泳部

収入

昭和50年度繰越	22,370円
部員アルバイト	90,000
育友会援助	45,000
凌泳会援助	180,000
部員負担	500,000
	837,370

支出

水連登録費	36,000円
合宿費	500,000
会合費	160,000
試合・練習費	15,000
交通・通信費	20,000
設備・燃料費	80,000
衛生費	20,000
雑費	6,370
	837,370

昭和51年度行事

- | | |
|------------------|-------------------|
| ○4/3 (土)~4/6 (火) | 春季合宿(和歌山県湯浅、広川温泉) |
| ○5/16(日) | 凌泳会総会(神鋼健保プール) |
| ○5/22(土) | 新入生歓迎コンパ |
| ○6/6(日) | 兵庫県春季水球大会(市立須磨高) |
| ○6/13(日) | 京阪神三大学戦(同志社大) |
| ○6/20(日) | 兵庫県国公立戦(商科大) |
| ○6/27(日) | 関西ポロリーグ(市大) |
| ○7/4(日) | 兵庫インカレ(商船大) |
| ○7/7(水)~7/11(日) | 夏季合宿(六甲台) |
| ○7/17(土)・7/18(日) | 関西国公立戦(京大) |
| ○7/25(日) | 対市大戦(市大) |
| ○8/1(日) | 旧三商大戦(一ツ橋大) |
| ○8/7(土)・8/8(日) | 全国国公立戦(熊大) |
| ○8/15(日)・8/16(月) | 関西インカレ(府大) |
| ○8/24(火)・8/25(水) | 近国体(大教大付属池田) |
| ○9/ (未定) | 関西ポロリーグジュニア戦 |
| ○9/15(水) | 月見の宴 |

凌 泳 会 会 則

第一章 總 則

第一條 (名稱)

本会は凌泳会と稱する。

第二條 (事務所)

本会は事務所を神戸市灘区六甲台町神戸大学に置くこととし、宛名は同大学学生課気付「凌泳会」とする。

第三條 (目的)

本会は会員相互の連絡と親睦を図ると共に、神戸大学水泳部の發展に寄与することを目的とする。

第四條 (事業)

本会は前条の目的を達成する為に左記の事業を行なう。

一、会誌「凌泳」の発行

二、会員相互の連絡

三、定例總會及び各種の親睦会合

四、神戸大学水泳部發展の爲の指導及び援助

五、その他、本会の目的を達成するに必要な事項

第五條 (会則の改廢)

本会則の制定及び変更は總會の決議によって行なう。

第二章 会 員

第六條 (會員)

本会の會員を分けて正會員、特別會員、及び在學會員とする。

第七條 (正會員)

正會員とは、次のものを云う。

国立神戸高等商業学校 国立神戸商業大学 神戸経済大学 神戸大学

以上の諸学校に於て在學中水泳部に所属したもの。

第八條 (特別會員)

特別會員とは次のものを云う。

一、前条の諸学校で水泳部々長及び副部長であつた者及び現在ある者。

第九条（在学会員）

二、その他、總會の決議によって推薦した者。
在学会員とは次のものを云う。

現在、神戸大学々生で水泳部に所属する者。

第十条（会費）

正会員は会費として年額二、五〇〇円を当会へ納入する。

第三章 役員

第十一条（役員）

本会には左記の役員を置く。

会長 一名

副会長 二名

監事 若干名

幹事長 一名

本部幹事 若干名

支部幹事 若干名

第十二条（改選）

役員は改選は總會の決議によって行なう。

第十三条（任期）

役員は任期は一年とし再選を妨げない。

第十四条（会長）

会長は本会を代表し且つ統轄する。

第十五条（副会長）

副会長は会長を補佐し、会長事故ある時はこれを代行する。

第十六条（監事）

監事は本会の会務及び会計を監査する。

第十七条（幹事長及び本部幹事）

幹事長及び本部幹事は会長、副会長を補佐し總括的会務の執行に当る。

第十八条（支部幹事）

支部幹事は各支部の事務を執行すると共に、本部の諸活動に協力する。

第十九条（招集）

総会は少くとも二週間以前に会議の目的を明らかにした通知を以って会長がこれを招集をする。

第二十条（時期）

総会は毎年五月に開催するものとし、臨時総会は必要に応じて招集する。

第二十一条（議決）

総会の決議は出席正会員の過半数をもって決する。

但し、当該議事につき書面をもってあらかじめ意思を表示したものは出席とみなす。

第五章 会 計

第二十二条（経理）

本会の経理は、会費、寄附金及びその収入によって賄う。

第二十三条（決算）

本会の収支決算については、会計の監査を経た上、春季総会に於て報告しその承認を受ける。

第二十四条（期間）

本会の会計年度は、毎年四月一日より三月三十一日までとする。

第六章 雑 則

第二十五条

本会則は、昭和五十年五月十七日より発効する。

凌泳会々員名簿

物故會員名簿

大谷親之輔	高田寿三	三輪喜一郎	繁益繁次郎	鈴木不覆雄	山下虎藏	山村馨	榊零一	中村聖一	岡本幸一	野田曾一	加納茂	小笠原房穂	藤井正太郎
20	20	20	19	19	18	17	17	17	17	16	16	15	高特

松木勇	村上秀造	和泉弘	栄口昌二	片山四郎	小西熊雄	鍵本芳雄	太田清	川西武雄	阪本豊一	東光武三	田川亮一	浅野猛	中村毅
8	7	7	6	5	3	2	26	26	22	22	22	21	21

今井彰	中島功	伊藤藤一郎	前田礼之	池田勲治	山口八郎	稻垣慶三	柏木上幸	井上正悟	恩地正夫	部坂克夫	新原拓郎
8	1	17	14	13	12	11	11	11	10	10	9

新

8 1 17 14 13 12 11 11 11 10 10 9

編集後記

現在、シーズンに突入し、六甲台プールも水泳部員も一番活き活きしている時期。所帯が大きいわりに、ファミリー的雰囲気があるのはここ数年來の女子部員定着も、その要因の一つではないか。

前号に載せた歴代十傑表が部員をかなり刺激し、それならばと合わせて個人の最高記録も復活掲載致すこととなりました。

又、行方の不明となった会員の方々の足取りをつかもうと努力しましたが、成果はほとんど無に等しく終わってしまい、申し訳なく思っております。尚、その折御足労願った多くのOB諸氏に御礼申し上げます。

(追記)

24回生田淵耕さんは、まる一年間の療養生活とこの春縁を切り、既にゼミナールをはじめ、元気に通学なさっており、時折プールにも足を運ばれ我々後輩に助言して下さいます。快復なされたことを、心よりお慶び申し上げます。

後 藤 信 人

昭和五十一年七月二十六日 発行

発行所 神戸市灘区六甲台町二

凌 泳 会

神戸大学水泳部

編集 神戸大学水泳部凌泳編集係

発行者 後 藤 信 人

印刷所 神戸市東灘区住吉町垣ノ内三

小野印刷株式会社

電話(〇七八)八五一〇六〇一

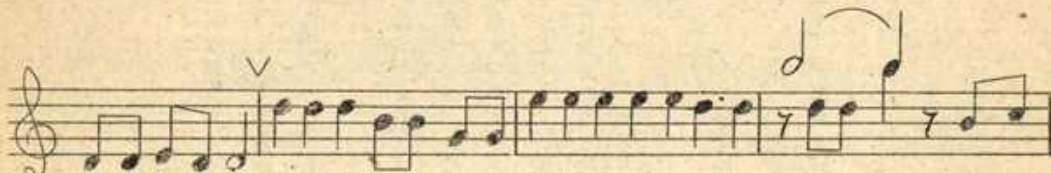
水 泳 部 歌

作 詞 古 林 喜 楽

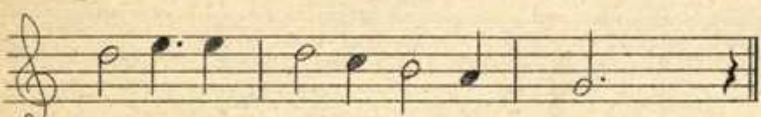
作 曲 山 田 貴 彦



1. ま や 六 一 甲 一 に い だ か れ て こ こ む こ が お か の
 2. フ リ ー ブ レ ス ト バ タ フ ラ イ バ ッ ク ー リ レ ー
 3. あ あ な つ か し の す い え い ぶ ろ っ こ う だ い の ー



み ず き よ し ち め の う ら わ を み お ろ し て ー し ぶ き を あ ー
 ボ ロ ま で も り よ う え い け ん じ の い き た か し い ざ や き そ
 プ ー ル べ に つ き み の え ん で ー お よ ぎ や め く る な つ ま ー



げ る け ん だ ー ん じ
 わ ん う で を ー ぶ し
 っ て い き い り た つ